

SB38 サイドイベント傍聴報告

2013 年 6 月 14 日
一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2013 年 6 月 3 日～14 日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第 38 回補助会合 (SB38) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル : UNFCCC 報告義務に対して : IPCC インベントリ・ソフトウェアと方法論の報告 (“Responding to the UNFCCC Reporting Needs: IPCC Inventory Software and Methodology Reports”)
- イベントの種類 : Side event
- 日時 : 2013 年 6 月 8 日 (土) 13:15-14:45
- 主催 : WMO/UNEP Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)
- 会場 : ドイツ環境省 (Solar)
- プレゼンター : 福田真耶氏、Nalin Srivastava 氏、Baasansuren Jamsranjav 氏、Tiffany Troxler 氏 (IPCC TFI テクニカルサポートユニット (TSU))、Jongikhaya Witi 氏 (南アフリカ環境局)、Amit Garg 氏 (インド経営大学院)、Ioannis Sempas 氏 (アテネ国立技術大学 GHG インベントリシステム)

■ 概要

- 冒頭、平石尹彦氏 (IGES 理事・上級コンサルタント) より、IPCC が 2012 年 5 月のボン準備会合にて GHG インベントリ作成用のソフトウェア (IPCC Inventory Software) を開設したことが伝えられ、今次サイドイベントでは、そのソフトウェアの最新版¹の概要と、2013 年秋頃完成予定の 2006 年版 IPCC ガイドライン補足書に関する報告をする旨、伝えられた。

■ 発表内容

1. 福田真耶氏 (IPCC TFI TSU)

＜IPCCソフトウェアの概要について＞

- IPCC インベントリ・ソフトウェア (以下、IPCC ソフトウェア) は、IPCC ガイドラインの活用をサポートするために開発されたもので、2006 年 IPCC ガイドラインに基づく国の GHG インベントリ作成ツールとして用いることができる。また、1996 年 IPCC ガイドラインをベースに活用することにも対応している。

- 主な特徴としては、下記の通り :

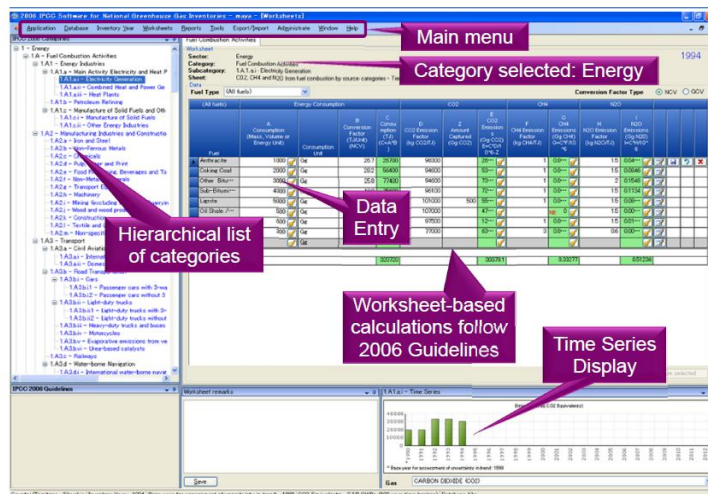
- ✓ 国別、ユーザー別、年別等の区分がある

¹ 2013 年 4 月に更新

- ✓ ワークシートへのデータ入力の方法をとる
- ✓ デフォルトデータを活用する
- ✓ 外部へのデータ転送・外部からの移動 (export/import) が可能 (※詳細はP3.発表3)
- ✓ 品質保証・品質管理、不確定要素の分析、主要カテゴリー分析ができる
- ✓ データのアーカイブ化、など

- 2013年4月に更新されたソフトウェアには、「国別報告書 (National Communication)」のフォーマットも含まれる。
- エネルギーセクターが最もシンプルな構成であるとして、同セクターのソフトウェアを例に、コンテンツ、データ構成が紹介された (図1、2)。

図1. エネルギーセクターワークシート

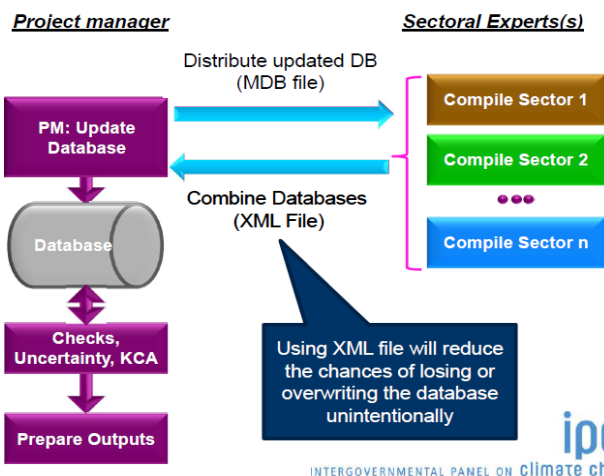


ポイント：

- ◆ データベースにデータを入力後、推計値結果が得られるようになっている。
- ◆ NCフォーマットへ転送することが可能となっている
(注記：フォーマットは「Decision17/CP.8のTable 1と2」を参考に作成)

図2. データの書き換え

Multiple Users



ポイント：

- ◆ XMLファイルと、データファイルが別々に設定されているため、データベースに直接に上書きする必要がないという所もポイント。

2. Narin Srivastava氏 (IPCC TFI TSU)

＜農業セクターのソフトウェアの特長を説明＞

- 農業セクターのソフトウェアは複雑な構造をとるとして、その特長が紹介された。(例えば、管理項目には、2つのオプション (Land Managerと Life manager) がある。さらにLand managerを開くと、森林 (Forest land) のパラメーターのデフォルト値やリファレンスが選択できるようになっている。)

3. Baasansuren Jamsranjav氏 (IPCC TFI TSU)

＜Uncertainty分析、Key Category分析、データ転送・移動 (export/import) について＞

- 不確実性 (uncertainty) 分析、主要カテゴリー (Key Category) 分析の方法が示された。

図3. 不確実性分析

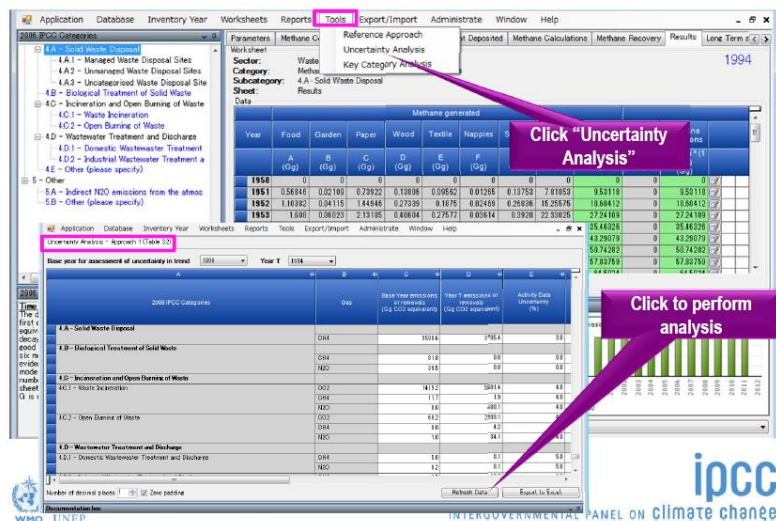
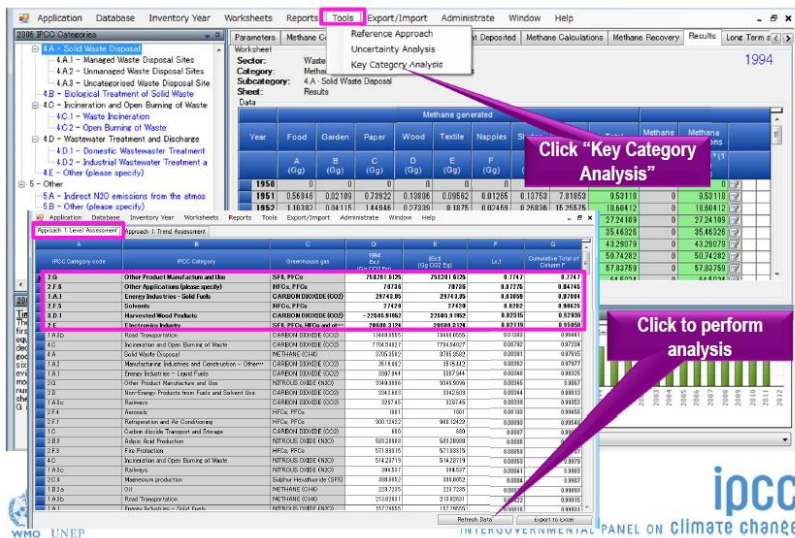


図4. 主要カテゴリー分析



- データのエクスポート、インポート方法についてもデモンストレーションが行われた。
転送・移動が可能なデータとしては、以下の通り。
 - ✓ ワークシートデータ
 - ✓ CO2換算値
 - ✓ フロンガス（HFC（ハイドロフルオロカーボン）、PFC（パーフルオロカーボン）、SF6（六フッ化硫黄））データ
 - ✓ 非附属書I国（NAI）報告テーブル

4. Jongikhaya Witi 氏（南アフリカ環境局）

＜南アフリカにおけるソフトウェア活用を通じた経験について＞

- 同国におけるソフトウェアの活用し、2013年6月に第4次報告書を完成させ、7月～9月にレビュープロセスとなっている旨報告がなされた。

5. Amit Garg 氏（インド経営大学院）

＜インドにおけるソフトウェア活用を通じた経験について＞

- 2006年IPCCガイドラインソフトウェアを活用する理由として、1) インドには（2006年IPCCソフトウェア作成過程に関わった）インベントリレビューアーが多くいる、2) シンプルな機能である、3) 必要に応じて多彩な報告用のデータやグラフが作成できる、4) 不足しているデータソースが特定可能であることなどが伝えられた。
- また、1996年ガイドラインから2006年ガイドラインに変更した結果、幾つかのデータが変化したことが伝えられた。（例：セメントセクターでは、対象となる活動範囲が広がったため、排出量が増えた。交通セクターについては例えば、一部のカテゴリーが家庭セクターにおける排出源に代わったりしたために、減少した、など）。
- そのうえで、今後の課題としては、1) .2006年ソフトウェアに関するトレーニングの実施、2) IPCC2006年ガイドラインとUNFCCCの適合、数字の明確化、などを挙げた。

6. Ioannis Sempas 氏（アテネ国立技術大学 GHG インベントリシステム）

＜ギリシャにおけるソフトウェア活用を通じた経験について＞

- 2006年の新たなガイドラインを活用したインベントリをシフトする際の手順として、何度も関係者と勉強会を実施し、また多くのワークショップを開き、自国や他国の経験を共有する取り組みを行ったことが伝えられた。
- また、このソフトウェアが単独型(stand alone＝自分のPCにダウンロードして活用することができる)であるという利点から、大学の学生に学習用として活用していることが紹介された。

■ 質疑応答

Q. (不明) :非付属書I国（NAI）フォーマットとはどういうものか？

A. (TSU) :Decision17/CP8で示されているNAIフォーマットに同じフォーマットのことで、そこにデータをインポートできるようになっている。

Q. (豪州政府) :ソフトウェアを活用すると簡単にフィードバックできるようになるとはどういうことか？

A. (TSU) :入力データが、IPCCスプレッドシートのデータと簡単に比較することが可能となる。（例えば、フロンガスや廃棄物など）

Q. (豪州政府) :既存のデータが1996年ガイドラインで作られるのに、2006年ベースのソフトウェアを活用する理由は？

A. (TSU) :できるだけ最新のガイドラインを活用することによってよりデータが精緻になる。2013年秋に報告予定の2006年版IPCCガイドライン補足書では、科学的知見が高まり。結果として、湿地のタイプにDrainageなどが追加されたほか、湿地（wetlands）の有機土壌の更なる詳細なども加わっている。（詳細はIPCCホームページに掲載）ただし、（2006年版IPCCガイドライン補足書に関しては）2013年10月中旬に承認パネルで協議され採択されるため、11月のCOP19までにはあまり準備の時間がない。また、採択後もウェブ更新まで少し時間がかかるため、すぐに入手可能というわけではない。

Q. (豪州政府) :補足書に関しては、一部定義が不明確で異なる解釈がされる恐れもあるが、どうやってユーザーフレンドリを向上できるかと思うか？

A. (TSU) :1点目は、この補足書については、COPにおける締約国の決定でどうにもなると思っているので、この問題は、締約国が将来のニーズとしてどんな答えがあるかによって議論することのような気がする。政府間で調整してはどうか。

（報告者：OECC 古宮祐子）

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_SB38report.html

英語版

http://www.mmechanisms.org/e/relation/details_oecc_SB38report.html